

令和元年

すべての会計決算を認定

定例会9月会議



問 ふるさと納税の納税総数は、4,758件で9,872万円1千円。

答 16世帯263人、徴収の訪問等を行っている。

問 町営住宅使用料の未納とその対策は。

答 営業を停止しているゴルフ場の影響は。

答 1事業所が1年間休止、ゴルフ場利用税交付金は、減額になっている状況。固定資産税と法人町民税ともに、営業するしないに関わらず課税。

問 営業を停止しているゴルフ場の影響は。

答 法人が解散し、未納が発生した。

問 入湯税徴収率92.9%の理由は。

答 法人が解散し、未納が発生した。

一般会計

様々な視点から質疑が行われました。

問 ふるさと納税の返礼品の制限は。

答 約3割以内が返礼品の費用。

問 防犯灯の要望件数は。

答 20件で、14件に設置。

問 里山整備事業の整備内容は。

答 ルネサンス棚倉東側の山林にエドヒガンザクラの植樹等を行っている。

問 友好の森林づくり事業費の業務委託は。

答 友好の森の草刈り業務。

問 コミュニティ推進事業の修繕と整備の内容は。

答 集会所の修繕、整備。また新築に対する補助がある。

問 ルネサンス棚倉費の修繕費のこれからの予想は。

答 オープンから30年を経過しており増える可能性もある。

問 人工透析患者通院交通費事業費の申請者数は。

答 41名、月5,000円を超えた部分に支給。

決算特別委員会の様子

令和元年度の決算認定は、決算特別委員会に付託され慎重に審議されました。その結果、一般会計決算認定及びその他の特別会計決算認定については全会一致で認定しました。

会計別決算額

(千円未満切捨て/△はマイナス)

会計名		歳入	歳出	差引
一般会計		75億7,911万3千円	70億9,886万3千円	4億8,025万円
特別会計	国民健康保険	13億2,689万7千円	12億8,214万9千円	4,474万8千円
	後期高齢者医療	1億4,187万6千円	1億4,157万2千円	30万4千円
	介護保険	14億3,541万7千円	13億8,972万8千円	4,568万9千円
	簡易水道事業	4,513万円	4,487万6千円	25万4千円
	公共下水道事業	3億114万3千円	3億95万円	19万3千円
	農業集落排水事業	7,481万4千円	7,474万1千円	7万3千円
	霊園整備事業	106万9千円	97万2千円	9万7千円
	小計	33億2,634万6千円	32億3,498万8千円	9,135万8千円
一般・特別会計決算合計		109億545万9千円	103億3,385万1千円	5億7,160万8千円
上水道事業会計 (消費税抜き)	収益的収支	3億5,891万8千円	3億2,710万円	3,181万8千円
	資本的収支	1億9,586万3千円	3億1,289万3千円	△1億1,703万円

※上水道会計 資本的収支の不足額については、過年度分損益勘定留保資金、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額、建設改良積立金で補てんしました。

問 敬老会招待者数と参加数は。

答 2,279人に招待し、約250名が参加。

問 インフルエンザ助成事業の高齢者の接種率は。

答 約58%。

問 棚倉町農業再生協議会への補助事業の内容は。

答 農業所得安定対策、商品開発等を目的に実施。

問 ふくしま森林再生事業の実施面積と箇所数及び入札業者は。

答 140ヘクタール、4箇所、入札参加業者は5社、1業者と契約。

問 プレミアム付商品券の実績と使用率は。

答 引換券を95人に交付、商品券の使用率は99.3%。

問 祖父岡団地の土地の返還は、令和元年度に返還している。

答 令和元年度に返還している。

問 預かり保育の保育員の人数は。

答 保育員12名、補充員が2名。

問 文化センターの屋外喫煙所設置工事の内容は。

答 0.5坪で施設の利用者が使えるようにしている。

問 就学援助費の内容は。

答 社川、玉野地区のタフシー補助、山本地区のバス定期券の補助。

問 特定健康診査等事業の受診率2%上昇の理由は。

答 過去5年間の未受診者に対し、電話勧奨を行った。

問 霊園整備特別会計 墓地を建てていない割合と墓地の購入の要望は。

答 墓地が建っている数は230区画中、131区画、5割弱。35件の購入の要望がある。

問 上水道事業会計 水道の有収率は。

答 77.9%。



補正
予算

一般会計3億9,300万円を増額

新型コロナウイルス 感染防止対策等事業予算可決

棚倉町独自の給付金

- ① 感染防止に向けてマスクや消毒液の予防品等購入のため、全町民に一人1万円を給付
- ② 新生児一人につき10万円を給付（令和2年4月28日以降に出生した子どもを対象）
- ③ 親元を離れて就学する学生の支援のため学生1人に最大5万円を給付
- ④ 6月以降も前年同月比較で30%以上減少している事業者へ10万円を給付

◆一般会計 主な事業

◎ふるさと納税推進事業費 1,023万円
返礼品や事務経費の増額。

◎棚倉町特別定額給付金事業費

1億4,125万円
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策への家計支援として町民1人につき1万円を給付する事業費及び新生児1人につき10万円を給付する事業費。

◎棚倉町学生応援給付金事業費

1,765万円
親元を離れ、棚倉町以外で生活している学生への生活応援支援として学生1人に最大5万円を給付する事業費。

◎単独農業用施設災害復旧費

1,745万円
7月8日の豪雨により災害を受けた農地、農業用施設の復旧に要する事業費。

◎単独林道災害復旧費 3,030万円

7月8日の豪雨、昨年の台風19号により災害を受けた林道の復旧に要する事業費。

◎単独土木施設災害復旧費

620万円
7月8日の豪雨により災害を受けた町道、河川の復旧に要する事業費。

定例会9月会議補正予算の状況

会計名			補正額	補正後の予算額
一般会計			3億9,300万円	90億9,263万円
国民健康保険特別会計			84万円	12億5,827万円
介護保険特別会計			4,502万円	15億3,438万円
上水道事業会計	収益的	支出	173万円	3億4,489万円
	資本的	収入	4,871万円	2億4,371万円
		支出	5,419万円	3億9,341万円

条例の一部改正等

◆棚倉町手数料条例の一部を改正する条例

行政手続における特定個人を識別するための番号の利用等に関する法律の一部改正により、個人番号の通知カードが廃止され再交付を行わなくなったことに伴い、再交付手数料に関する規定を削除するための改正。

◆タブレット端末機等購入締結について

小・中学校におけるGIGAスクール構想を推進するため、1人に1台タブレット1,051台及び関連機器を購入。

契約の目的

タブレット端末機等購入

契約金額 5,750万8千円

契約の方法 指名競争入札

契約の相手方

棚倉町大字関口字一本松146番地

株式会社 ユニテック

代表取締役 中丸 恵一

人事案件

全会一致で同意しました。

棚倉町教育委員会委員の任命



益子 秀一 さん
(戸中)

棚倉町固定資産評価審査委員会委員の選任



須藤 常雄 さん
(堤)

人権擁護委員候補者の推薦



長谷川 道圓 さん
(寺山)

◆意見書の提出（議員発議）

◎新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書
提出者 棚倉町議会
提出先 衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣・内閣官房長官・財務大臣・総務大臣・厚生労働大臣・経済産業大臣・経済再生担当大臣

◆請願 ※審査結果 採択

◎「国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書」の提出を求める請願書
提出者 福島県教職員組合
中央執行委員長 國分 俊樹

◆陳情

◎保育所等における新型コロナウイルス感染症対策に関する陳情書
提出者 福島県保育連絡会 大宮勇雄
◎東京電力福島第一原子力発電所事故で発生した放射能汚染水（アルプス処理水）の海洋放出に反対する意見書の提出について
提出者 DAPPE（平和と平等を守る民主主義アクション）
代表 表 芦野大地
賛同町民 小池健志

定期監査が行われました

（10月27日～11月6日までの7日）

各課の担当職員、外部団体の職員から聞き取りをしながら、書類等の確認を行い、適正に執行されているか確認をしました。

実施した外部団体

ルネサンス棚倉、棚倉町土地改良区、棚倉町社会福祉協議会、棚倉保育園、棚倉町商工会、棚倉町活性化協会、棚倉町観光協会、倉美館運営協会



定期監査の様子

町政を問う

定例会9月会議では7人の議員が登壇し質疑を行いました。
今回は、それぞれの視点から多岐にわたる質問がなされています。
次のページからは、要点をまとめて掲載してあります。

1 藤田光子 議員 …… 7ページ

1. 発熱外来設置についての現状は
2. 地域医療体制の充実は
3. 避難所等の必要エネルギーの確保は
4. 旧棚倉高等学校の取り壊しは

2 菊池忠二 議員 …… 8ページ

1. 湯座町長3期目の施政方針は
2. 養豚業とイノシシ対策は
3. 多発する自然災害への対応は

3 古市泰久 議員 …… 9ページ

1. コロナ禍に対する対応と対策は
2. 歴史的風致維持向上計画は
3. 町営弓道場の建設計画は

4 藤田智之 議員 …… 10ページ

1. 新型コロナウイルス感染対策は
2. 自治会加入の推進は
3. ワークেশンの推進は
4. 旧棚倉高校跡地の利用は
5. 引きこもりへの対策は

5 佐川裕一 議員 …… 11ページ

1. 歩行者交通安全対策は
2. 避難方法及び避難所運営は
3. 久慈川サイクリングロードの修復状況は

6 大竹盛栄 議員 …… 12ページ

1. 人口減少と市町村広域連携は
2. 防災マップの見直しは
3. 「歴史的風致維持向上計画」の内容は
4. 特別支援教育は

7 割栢義夫 議員 …… 13ページ

1. 町立幼稚園、小学校統合は
2. 農業振興対策は



問 発熱外来設置についての現状は

答 国・県で検査体制強化

問 インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症との複合感染対策は。

町長 高齢者と子供のインフルエンザの予防接種を10月1日から開始。発熱などの症状がある場合は、かかりつけ医療機関等で指示を受け対応する。

問 棚倉町の医療機関で抗原検査やPCR検査ができるのか。

健康福祉課長 発熱があった場合、かかりつけの医院で診察を受け、どちらかの検査ができる場合はその病院で、検査が出来ない場合は別の病院が紹介される体制となる。

問 感染症と自然災害が同時に発生した場合の町の措置は。

住民課長 避難所開設時の感染症対応マニュアルを策定し、職員研修を実施している。

問 避難所をはじめ公共機関入口に大型体温検知器の設置をしては。

総務課長 教育機関や他の施設などに非接触型検温器を配っている。今後は保健福祉センターなどの施設に大型を設置する予定。

問 地域医療体制の充実

答 広域的な体制が必要

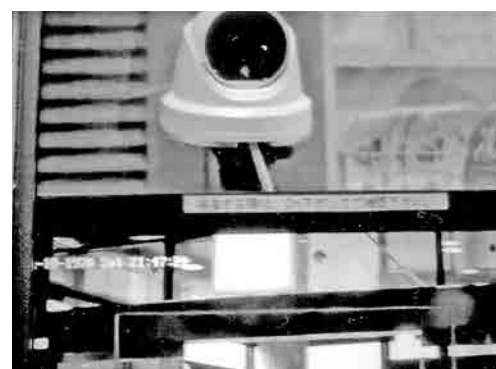
問 安心して子供を産み育てられる町として産婦人科、小児科がある事を望むが。

町長 町内には小児科が2院あるが、厚厚生病院を核として東白川町村会で厚生連、福島県、福島県立医大に対し産婦人科、小児科、人工透析治療の拡大について強く要望をしている。

問 人工透析治療院を誘致する考えは。

健康福祉課長 生活習慣病については広域的な問題と捉え、引き

続き棚倉町を核として人工透析診療の拡大について強く要望していく。



議員研修先での体温検知器

問 避難所等の必要エネルギーの確保

答 災害発生時に対応できる整備をしている

問 自然災害発生時の停電で必要となるエネルギーの確保は。

町長 太陽光発電システムや蓄電池を整備している。整備がされ

ていない避難所は発電機などで対応したい。

問 木質バイオマス事業の推進等は考えているか。

町長 地域内エコシステム構築事業に取り組んでいる。利用可能な施設において既存のボイラーやバイオマスエネルギー発電利用施設との費用対効果等調査研究をしている。

問 教育機関での活用可能な設備と考えられるが。

教育長 小、中学校においては太陽光発電システム、蓄電池の整備を実施しており、校舎、体育館で活用している。

問 旧棚倉高等学校の取り壊しと今後は

答 解体工事は来年7月9日迄に解体、以降は県と情報共有を図っていく



藤田 光子

問 湯座町長3期目施政方針を問う

答 人口減少の克服と地方創生に取り組む

問 新型コロナウイルス感染症の今後の推移と終息は。

町長 感染状況によることから見込を立てることが難しい。

問 PCR検査の個人負担額は。

健康福祉課長 2万から2万5千円と聞いている。

問 PCR検査、抗原検査は自分が求めれば可能か。

健康福祉課長 医師の判断で行つ。

問 感染者への誹謗中傷防止のための思いやり条例などの考えは。

健康福祉課長 検討していない。

問 近年の自然災害等の増加に対しインフラの強靱化が必要ではないか。

町長 致命的被害の回避、早期復旧、復興のための棚倉町国土強靱化計画を策定中。

問 飲食店、小売店に対する継続した支援は。

町長 6月以降にも影響をうけている事業者に対し10万円の臨時給付を行う。

問 ルネサンス棚倉へ、サマールカメラの導入の検討は。

産業振興課長 調査研究する。

問 町長としてのあるべき姿、人物像は。

町長 誠心誠意、先頭に立って町政に取り組むことがあるべき姿であると考えている。



価値あるまちづくりを目指して

問 現在の養豚業者と新規予定の数は

答 現在1業者で新たに1業者から相談がある

問 豚熱対策は。

町長 県で飼育豚全頭にワクチン接種・養豚場の消毒徹底と野生イノシシの捕獲、調査の強化を予定。

問 我が町の駆逐隊の実施隊員は何名で野生イノシシの捕獲の成果は。

産業振興課長 現在18名で活動、一昨年度は17頭、昨年度は22頭を捕獲している。

問 労働時間などを考慮しても1頭当たりの報奨金に上乘せが必要ではないか。

町長 現在のところ考えていない。

問 天敵のいない野生イノシシの駆逐は重要で個体数増加、豚熱対策、農作物対策上、将来は業務

委託も必要になり産業として育てていくべきでは。

産業振興課長 将来は分からないが、現在のところは考えていない。

問 各家庭に自然災害発生時に蓄電設備が有効では

答 国、県の助成金が活用可能

問 災害時に、特に気温が高い時や低い時など、命を維持するためエアコンなどの電源として有効な蓄電池設備は、災害に強い町づくり、魅力的な町づくりの一助として国、県の助成金と、更に町の単独助成金の考えは。

産業振興課長 1キロワットアワー当たり、4万円の県の助成の活用を町として推進していきたい。



問 コロナ感染者の経緯は

答 4名の感染者は、現時点で全員退院

問 コロナ感染者の経緯と二次感染者等の対応は。

町長 濃厚接触者を特定し、PCR検査を行い、陰性者に対し、14日間の自宅待機を行う体制になっている。

問 飲食応援クーポン券の利用状況と経済効果は。

町長 9月17日現在、利用金額は約763万円で、利用率55%である。経済効果は、73事業所が登録、経済効果はあったものと考えている。

問 事業としては、規模が小さいのではないか。

町長 利用率等の結果が出た後にきちんと検証していきたい。



問 歴史的風致維持向上計画の方針は

答 適切な保存と効果的な活用を検討

問 歴史建造物周辺整備の具体的な計画は。

町長 棚倉城跡周辺では、周辺道路、城下道路、観光拠点施設整備事業。馬場都々古別神社周辺では、鳥居間の道路、交流・憩いの場施設等の整備事業である。

問 景観計画及び景観条例制定の時期は。

町長 制定時期は定めていないが、町独自の計画の策定、条例の制定について検討していく。

問 外堀の石垣の対応は。

生涯学習課長 現在策定中の棚倉城跡保存活用計画の中で議論している。



城跡周辺道路

問 個人所有の未指定建造物は、国・県・町の助成措置が無ければ保存は困難だと思ふが。

地域創生課長 約50年程度経過している歴史的価値ある建造物は、歴史的風致形成建造物に指定をし、町としても支援していく。

問 歴史的価値のあるものが観光と結びついて経済効果を生み出すことが最終目的だと思うが。

町長 今回、歴史的風致維持向上計画が国の認定を受けて、町全体として歴史的な価値を認識し、保存・活用し、実行していくことが必要である。

問 町営弓道場の調査研究の進捗状況は

答 近隣市町村や補助金の状況を調査中

問 隣接市町村に弓道場があつて、本町にない理由は。

教育長 競技人口が拡大せず普及振興が進まなかったことが要因である。

問 競技人口が拡大しないのは、弓道場が無いからである。弓道場建設の再考を求める。

町長 既存の弓道施設の競技環境向上の検討を含め、競技人口の拡大に向け、なるべく皆さんが活用できるような方法を考えていく。



古市 泰久



菊池 忠二

問 発熱外来の設置は

答 郡内町村で設置と体制整備を要望中

問 発熱外来の設置と今後の見通しは。感染者等への風評被害対策は。他の自治体の取組で参考になるものは取り入れては。インフルエンザの予防接種の推進は。

町長 発熱外来の設置を郡内医師会と厚労省に要望しており、設置まではかかりつけ医療機関、帰国者・接触者相談センターへの電話連絡と指示での受診をお願いしたい。誤解や偏見での誹謗中傷を無くすよう広報しており、県では相談窓口も設置された。他自治体の取り組みを参考に全庁的に検討を重ね特に効果的で必要な事業を、今回の補正で、給付金の基準日以降に生まれた新生児に10万円、町外で生活する学生に最大5万円の給付を計上した。インフルエンザの予防接種は10月から補助する予定。

問 住民登録と居住実態の差は

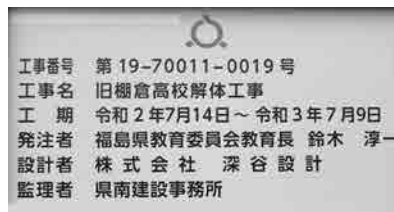
答 把握していない

問 自治会の加入率、住民登録と居住実態の差や賃貸住宅の加入状況等は。非加入世帯への対応は。加入促進のパンフレットや不動産業者等との連携は。

町長 現在3,572世帯が加入し加入率は約70%、住民登録と居住実態の差や賃貸住宅の加入状況等の把握はしていない。非加入世帯へ暮らしのカレンダー等は5月中旬に郵送し、広報誌などは公共施設、商業施設等にも置いて配布している。また町HPや防災無線などでも情報を発信している。パンフレット等は無いが窓口で転入者へ加入の案内はしている。不動産業者や大家との連携や協定はしていない。課題があるとは認識している。

問 旧棚倉高校跡地の利用は

答 現時点で具体的な情報は無い



解体工事が進む旧棚倉高校跡地

問 解体工事の進む校舎跡地を町としてはどの様に考えるのか。自ら取得する考えはあるか。高校用地として町が支援をした経過もあるのでは。

町長 福島県地域連携室から情報を収集しているが現時点で具体的な情報は無く、教育委員会所管の行政財産で払い下げなどの打診もないので、これまで通り県営施設での利用が計画されるよう要望していきたい。昭和36年に町が県に敷地を寄付した経緯はあるが交渉する状況にはない。今後も県の動向を注視していきたい。



旧棚倉高校跡地

問 ワークションの推進は

答 県のモデル事業の展開と動向に注視しながら推進していく

問 引きこもりの実態把握と対応は

答 数は把握していないが自立を目的とした委託事業を実施

問 歩行者安全対策は

答 安全確保に努めている

問 通学路において町が危険と判断している箇所数と対応は。

教育長 安全確保の対策が必要な箇所は51箇所。棚倉町通学路安全対策推進会議において確認し、防護柵設置等の対応などにより通学路の安全確保に努めている。

問 お年寄りへの交通安全対策は

町長 65歳以上の免許証返納者へのタクシー利用料金助成、また、町交通対策協議会においては、高齢者に対し、歩行時の安全確認や反射材の着用などを呼びかけている。

問 町内横断歩道で、横断歩道の線が薄くなっている箇所の対応は

町長 横断歩道については、公安委員会が設置をしており、警察署が窓口となる。県全体で優先順位をつけて対応。

問 旧町内のカラー歩道の修繕は。

町長 実施計画の中で検討。



線が見えにくくなっている横断歩道

問 避難方法および避難所運営は

答 自分の食べ物や飲み物等を持参

問 一時避難所を含めた避難所の数、最大収容者数は。

町長 指定避難所15箇所、一時避難所36箇所。最大収容人数は、指定避難所15箇所の通常の場合の収容人数は約5,000人。

問 非常時の水や食糧の備蓄量と、提供する場合の状況、規定は。

町長 水628リットル、アルファ米200袋、ビスケット14箱、乾パン48個、クラッカー48個、紙コップパン30個、カレー20食、パスタ20食。

自分の食べ物や飲み物等を持参していただくことになっており、提供する方は、非常持ち出しがでなかつた避難者や旅行者、持参してきた食料がなくなつた方、被災されて自宅に帰れない被災者が一時的に指定避難所等で生活される場合等。

問 毛布、マットレス等の備蓄は

町長 毛布が116枚、防寒アルミシート300枚、間仕切り117区画分、床マット150枚、組立て式トイレ3セット。



佐川 裕一

問 粉ミルクや離乳食、また高齢者食等への対応は。

町長 粉ミルクについては約200食分確保。離乳食、高齢者食については、現段階では備蓄をしていない。



指定避難所の保健福祉センター

問 久慈川サイクリングロード修復状況及び今後の活用は

答 災害復旧工事は、県が本年7月に契約、早期完成できるよう工事を実施。東白川地方自転車活用推進計画に基づき地域の活性化に活用



藤田 智之

問 高野幼稚園が棚倉幼稚園と統合の経緯と方針は。

答 高野幼稚園が棚倉幼稚園と統合の経緯と方針は。幼稚園、小学校統合の判断基準は。教育長 統合の基準はない。今後設置する委員会の中で、学びの方向性や教育環境の充実、施設のあり方や統合の基準について検討していく。

■今後の園児・児童の推移

幼稚園名	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
棚倉幼稚園	193	170	169	151
社川幼稚園	55	50	48	48
高野幼稚園	17	8	10	5
近津幼稚園	54	49	32	34

学校名	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
棚倉小学校	400	416	404	394
社川小学校	155	155	142	124
高野小学校	59	55	46	42
近津小学校	123	114	114	101

問 今後の園児、児童の推移は。教育長 見込で全幼稚園、毎年少数であるが減少している。小学校についても同様に減少している。

問 今後の町立幼稚園、小学校統合は
答 検討委員会で、統合を検討する

問 検討委員会の立ち上げは。子ども教育課長 要綱等を整備して10月中には発足させたい。

問 地域に相談がなかったのは。子ども教育課長 まず、保護者の不安を取り除き、理解を得た後、地域の方々には方向性が見えてから説明するべきと思っている。

問 説明会はいつ、どこで、内容等は。子ども教育課長 6月に小学校と幼稚園で今後の園児の推移等を説明し、8月に1回、保護者全員に同様の説明と令和3年4月に統合したい旨を説明。また、支援方法について説明した。出席は、町から子ども教育課長と課長補佐である。

問 各幼稚園、小学校または、小・中学校の一貫教育を考える時期は。教育長 すぐにといつ訳にはいかない。時間をかけて、検討委員会で議論し、どの教育が、どの施設がどういう状況がいいのか、再度検討していく必要があると思っている。



高野幼稚園

問 今後の農業振興対策は
答 新規就農者、認定農業者を支援

問 新規就農者、認定農業者の支援対策は。町長 国の農業次世代人材投資資金制度がある。計画達成に向けた指導をしている。



刈取りが進む水田

問 今後農業委員会との連携は。産業振興課長 人・農地プラン、地域の農業、地域の農地をどうするかを地域全体で考えて、これからの担い手などをどのようにするか計画を作成し、今後、地域ごとに進めていきたいと考えている。

問 セカンドキャリア就農支援は。町長 新たに65歳未満の知能・技能を有する農業者が町の認定を受け、認定農業者と同じ支援を受けることができる。町では認定農業者や新規就農者に対して農業機械・農業施設等の補助をしている。



割栢 義夫

問 地方制度審査会が、高齢人口のピークを迎える2040年頃を見据え、市町村の広域連携が必要だと発表しているが、町の考えは。町長 平成27年に策定した棚倉町長期人口ビジョンに基づき、第6次棚倉町振興計画を基本とする棚倉町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し様々な施策に取り組んでいる。また、白河地方広域市町村圏整備組合や東白衛生組合、



広域連携会議の様子

問 自主防災組織の状況は。町長 現在13地区で設立されている。地域における防災、減災の要であると考えており、今後状況が整いしだい説明会を開催し、推進していく。

問 どのように変わるのか。町長 水防法が改正され福島県において県内の河川の洪水浸水想定区域の見直しを順次行っており、これらを踏まえて改正する。

問 防災マップの見直しは
答 令和3年度に改正する

さらに、八溝山周辺地域定住自立圏、しらかわ地域定住自立圏、F-1構想推進協議会など連携を図っている。

問 特別支援教育の取組みは
答 児童の可能性を伸ばす支援

問 棚倉町学校教育経営改革プランに、発達に応じた指導の継続性があるが、特に要支援の児童生徒に具体的にどのような取組みをしているか。教育長 児童の就学先、学びの場の決定には、本人や保護者と早期から教育相談を行い、児童の可能性を伸ばすことが出来るよう意見を尊重し、地区就学支援委員会での審議結果を基に、保護者と共に総合的判断により決定している。

問 通級教室の状況は。教育長 棚倉小学校に1学級設置されている。棚倉中学校には無い。

問 なぜ棚倉中学校に無いのか。子ども教育課長 教員が加配される要件に至っていない。



町のシンボル

問 歴史的風致維持向上計画の認定を受け、今後の事業計画は
答 棚倉城跡周辺道路整備事業、棚倉城跡観光拠点施設整備事業、さらには、棚倉城下道路整備事業等を計画している

問 町独自での通級教室を設置することは可能か。子ども教育課長 審議会の意見で通級指導教室に通級すべきという生徒が多ければ、当然県の業務なので、強く要望していきたい。



大竹 盛栄

厚生文教常任委員会

厚生文教常任委員会 活動報告



8月18日、役場委員会室で「第2期棚倉子ども・子育て支援事業計画」について、子ども教育課長を講師に研修会を行いました。研修会では、計画の目的や支援事業の推進等について概要の説明があり、理解を深めました。

議員研修会報告

福島県町村議会正副議長・ 事務局長研修会



8月27日、福島県町村議会議長会主催の町村議会正副議長・事務局長研修会が、ホテルグリーンパレス福島で開催されました。

研修会は、龍谷大学政策学部教授 土山希美枝氏による「政策議会をめざす議会改革 現状と課題」、ジャーナリスト 須田慎一郎氏による「これからどうなる政局・政治展望」について受講しました。

議員研修会報告

東白川地方町村議会議長会 正副議長研修会



10月6日、東白川地方町村議会議長会主催の正副議長研修会が、鮫川村役場で開催されました。

研修会は、関根政雄鮫川村長の「村民主体の村づくりを目指すための9の施策」について講演があり、須藤俊一議長、佐川裕一副議長が拝聴しました。

福島県

町村議会議員研修会



10月8日、福島県町村議会議長会主催の町村議会議員研修会が郡山ユラックス熱海で開催されました。

研修会は、元総務大臣・早稲田大学公共経営大学教授 片山善博氏による「ポストコロナの地方自治を考える」をテーマに「コロナ禍で見た地方自治の課題、地方議会は何をすべきか等について講演がありました。また、政治ジャーナリスト 角谷浩一郎氏による「今後の政局と政治の行方」について受講しました。

「一般質問のあり方」 についての研修会



議員控室で開催された研修会

8月28日、役場議員控室で「一般質問のあり方」について、福島県町村議会議長会 専門員 吾妻邦博氏を講師に研修会を行いました。

研修会では、質問とは、質問の範囲、質問の効果や質問の扱いについての説明があり、一般質問のあり方を学びました。

陳情

10月23日、棚倉町立学校PTA連絡協議会会長 遠藤安弘氏から町へ「令和3年度教育予算確保並びに施設等の充実に関する陳情書」の提出がありました。町内の各幼稚園、各小学校、中学校のPTA会長から陳情の内容について説明があり、町長、教育長、議長が出席しました。



議員控室で開催された教育予算の陳情



言わせて一言

人を・心を・時をつなぐたなぐらまちに

住む皆様にご意見、ご感想を伺いました。

それぞれの年代で関心のあること、ブームになっていること、ず〜っと継続していることがあります。また、日常の生活で心掛けていることも移り変わってきています。

ここ十数年の日常生活の漠然としたテーマは、月20万円の生活と衣食住のグレードアップ。シンプルな衣類と肌触りのいいシーツ、ニコッとなるおいしいもの、収納見直し・家回り・庭の手入れなど。

趣味・遊びでは、ヨガ、ギターの弾き語り、マツタケ採り。ヨガは素敵なインストラクターが増えてきているのでOK。ギターは白河や那須に行つてやっているが、棚倉にもそういう機会や場所があればと。マツタケは一大事！松くい虫にやられている山が増えています。森林資源を守るうえで、ささやかな僕の趣味を持続させていくためにも、世界中の森林関係者に頑張ってもらいたい！

祝部内にお住まいの
近藤勝信さん



城跡にお住まいの
佐藤利治さん



先日、福島市民大会「フエシング競技」に参加、年々参加者減少、これもコロナ・少子化が一因？休憩時に高校教員と雑談。就職は県内思考が強く8割と多い状況、面接も満足に行えなくオンラインで行つた企業もあるとのこと。理事長との話題も同様少子化による高校の統合・部活動の縮小も懸念されます。

さて、過日の議会報告で某町議の質問に担当者答弁、それがおかしいと意見したことが記憶にあり改善への強い意気込み・信念のある町議の拝察、今後とも喧々諤々とした議論を期待します。少子高齢化・雇用・災害の検証、PDCAを活用し深掘りした対策を議論したい。

核のごみ、北海道の町村の現状を理解するも目先の20億円で町、村政が永久に保てるとは考えられないし、当町でも類似案件が発生しないとは断言できない。町を二分することなく次世代に安全安心で豊かな町を継承すべく議会の皆様には信念ある議論をいただき町政発展に尽力願う。

あなたも議会を傍聴しませんか

傍聴の手続きは役場庁舎3階の傍聴者入口で住所と名前を書くだけで、どなたでも傍聴できます。

定例会12月会議日程のお知らせ（予定）

正式日程は、12月上旬開催予定の議会運営委員会で協議されます。



12月9日(水) 本会議

12月10日(木) 一般質問

12月11日(金) 一般質問

編集後記

新型コロナウイルス感染症の終息を日々祈る毎日ですが、中々見通しは立たない様です。生活を支える窓口としての自治体の役割は今後より重要になります。当然意見の分かれる政策もあります。議会広報を通して、町の広報誌では扱わない情報や議会でのやり取りなども伝えていきたいと考えています。

広報編集常任委員会

委員 藤田 智之



広報編集常任委員会

委員 近藤 正光	委員 割 栢 義夫	委員 佐藤 喜一	委員 藤田 智之	委員 鈴木 政夫
----------	-----------	----------	----------	----------